



ロータリー：
変化をもたらす

Rotary International District 2800 2017-2018

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER vol.10

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

ガバナー一月信 第10号

CONTENTS

- ガバナーメッセージ
- クラブ奉仕コーナー
- 第5ブロックIM報告
米山奨学生の歓送会報告
- 審議会について
- 第3回諮問委員会報告
- 各種セミナー報告
- 米山記念奨学会財団設立
50周年記念式典の報告
- 出席率
ロータリー情報のコーナー
- 新入会員紹介
表彰関係
- 4月のスケジュール



「クラブ奉仕・ロータリー情報・職業奉仕」合同セミナーの様子

4



国際ロータリー第2800地区
2017▶2018年度

- ◇ガバナー／鈴木一作
- ◇R.I.会長／イアン H.S. ライズリー
- ◇R.I.理事／斎藤直美、石黒慶一



親愛なる会長・幹事・ロータリアンの皆様へ

2017-18年度 国際ロータリー第2800地区 ガバナー 鈴木 一作

RIテーマ ロータリー：変化をもたらす (ROTARY: MAKING A DIFFERENCE)

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持 ~修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動~

4月は「母子の健康月間」です。現在、栄養失調や不十分な医療・衛生のために亡くなる5歳未満の子供の数は、世界で700万人と推定されています。このような子供たちの命を救うため、RI理事会は2014年10月、毎年4月を重点分野「母子の健康月間」と決めました。

◆日本の使命と責任

日本は世界有数の平均寿命を誇っていますが、第2次大戦後、妊婦や新生児、乳幼児の死亡率が大きく低下してきたこと（母子の健康）が、平均寿命を延ばしてきた大きな要因の1つです。それは、紛争や戦乱がなかったこと、高度な経済成長を果たしてきたことはもちろんですが、医療、衛生、栄養、教育、母子健康手帳や保健婦による医療サービスなどの充実に努めてきたからに他なりません。今後、それらの知識や技術、そして経済力を、後発開発途上国のために役立てること。それは、我々日本人の使命であり責務でしょう。

◆「母子の健康月間」は必要なのか？

ところで、この「母子の健康月間」は、他の特別月間、すなわち9月の「基本的教育と識字率の向上月間」、10月の「経済と地域社会の発展月間」、12月の「疾病予防と治療月間」、2月の「平和と紛争予防／紛争解決月間」、そして3月の「水と衛生月間」と密接に関係しています。言い換えれば、母子の健康を推進するには、「基本的教育」、「経済と社会の発展」、「疾病の予防と治療」、「平和」、「水と衛生」が欠かせないということです。逆に言えば、それらのテーマ全部が解決に向かっていけば、母子の健康は必ず推進するのです。実際、その良い例が日本であり、それは前段で述べた通りです。個人的には、内容が重複する特別月間を減らし、「クラブ奉仕を考える月間」や「超我の奉仕を考える月間」などを追加してもよいのではないかと考えています。その方がロータリーや各クラブの発展にむしろ役立つのではないかと、会員の退会防止や増強にも繋がるのではないかと考えています。せめて皆様のクラブで、そういうテーマで話し合う“フォーラム例会”をやっていたいただければ嬉しい限りです。

◆決議23-34に記された「RIの目的」

さて、1923年に採択された決議23-34の3)には「RIは次の目的のために存在する団体である」とあり、「c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかなう、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること」と記されています。

◆決議23-34に記された「社会奉仕事業」の指針

また、決議23-34の6)には、ロータリークラブは「社会奉仕事業」の指針として、「a) (前半省略) 市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行う(後半省略)」、「b) (前半省略) どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない」、「d) (前半省略) 総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない」とあるのです。さらに、「e) (前半省略) 現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい」、「g) (前半省略) ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられた、いわば研究室の実験としてのみこれを見るべきである」と記されています。

◆3-Hプログラムと決議23-34

1978年、ロータリー財団は「保健、飢餓追放、人間性尊重（3-H）補助金プログラム」を開始し、そのプロジェクトの第一号として、フィリピンの600万人の子供たちにポリオの予防接種が実施されました。当時、これが上述の決議23-34の3）や6）に抵触または違反するのではないかと議論がありました。その後、（詳細は割愛しますが）議論は一応の決着がついたのですが、未だに不満を抱いているベテラン会員も少なくないようです。いずれにしても、時代の流れの中でロータリーも変わらなくてはならないのは当然ですが、決議23-34の主旨から離れた方向に変わりつつあることは確かでしょう。

◆ロータリーの協力機関

2016-17年度の「国際ロータリー／ロータリー財団」の年次報告書には、「ロータリーは世界各地で人道的支援活動に取り組むため、多くの国際機関、非営利団体、教育機関と協力しています」とあり、パートナーとして国連、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、米国平和部隊などの名前が列挙されています。こうした機関との協力事業も大切でしょうが、クラブ会員個人には支援の実感が湧きづらいという欠点があります。もちろん、ポリオプラスやグローバル補助金などの事業で実際に外国に行ったロータリアンは、支援の実感も湧くでしょう。しかし、そうした渡航に至るまでの調査や事務的作業は、かなり大変です。

◆支援の実感の湧く国際奉仕事業

そういう意味では、特別な苦勞もいらず、支援の実感も湧く、しかも個人で行なえる（したがって、決議23-34にも抵触せず、むしろ合致する）国際奉仕事業として、国際的に活躍している特定非営利活動法人（NPO）への支援や活動参加があります。しかも、ロータリー平和フェローの約40%は、NPOを含む非政府組織で働いているのです。私個人としては、RIはロータリー財団の事業一辺倒ではなく、会員個人のNPO事業への参加・協力を大いに奨励しても良いのではないかと思っています。それは、「ロータリーの目的」にも合致します。以下に、私の妻が参加してきたNPO事業を紹介いたしますので、参考してください。

『パパ・ママ大作戦』カンボジアツアーに参加して

私は、「出産をテーマに、生まれ出る命の尊さ・素晴らしさを実感し合い、共に語り合う“バースカフェ”活動」を3年前から続けています。今回、その活動を通じて知り合った方々のお誘いで、『パパ・ママ大作戦』カンボジアツアーに参加してきました。

『パパ・ママ大作戦』とは、1万2千円の支援で1人のカンボジアの子供を1年間に亘って小学校に通わせてあげるというものです。本年1月25日～2月1日の8日間、私は実際にカンボジアに行き、首都プノンペン郊外の4つの公立小学校と孤児院の子供たちと交流してきました。そして、電気もガスも水道もないプレイクラン村の小学校で、私と夫が支援する子供（わが子たち）に会い、制服や学用品を直接手渡しして、授業や日常生活を共にしてきました。

このツアーを主催したNPO法人「Globe Jungle」は、現地カンボジアに本部を置き、長年に亘って貧しい子供たちの未来のために、学校建設、教育支援、就労支援、孤児院支援などを行っています。大切にしていることは、支援を受ける側だけではなく、支援をする側も感動と感謝を分かち合う“笑顔の連鎖と共有”によって、継続的な支援に繋げていくことだそうです。



近年、経済成長が著しいカンボジアですが、首都郊外の生活環境は良くなっているとは言えず、逆に貧富の差が大きくなっているそうです。1970年代に起きた内戦時代の名残がある農村地域では、親は日々の暮らしが精一杯で、子供たちは親の手伝いや農作業で忙しく、小学校への通学もままなりません。もちろん、親のいない子供、貧しくて学校に行けない子供も少なくありません。しかも、公立学校の学習環境は劣悪です。学費は無料ですが、プリントの印刷代や試験を受けるお金が必要なため、そのお金を払うことができずに学校を辞めてしまう子供も多いと聞きました。

文字の読み書きや簡単な計算ができないと、仕事に就くのが困難なことはもちろん、農業でも農作物の取引で
だまされるそうです。教育は、生きていく上で必要不可欠です。

『パパ・ママ大作戦』は13年前の2005年に始まった活動で、今年度は各地の「バースカ
フェ」で協力を呼びかけたこともあり、例年以上の625人の子供たち（750万円）、のべ約
5000人（約6000万円）の支援にまで広がりました。日本のパパ・ママには、カンボジアの
“わが子”（奨学生）の写真付き報告書（奨学金証書）が送られ、“わが子”本人からの手紙も
届くなど、遠く離れていても支援の実感が湧く事業です。

昔の日本の貧しかった時代を思わせるようなカンボジア。それでも、自然の中
で元気いっぱいの子供たち。彼らを、日本人の少しの支援で、大きな希望
ある未来に繋げてあげられたら嬉しく思います。ちなみに、私は6歳の男の子、
夫は8歳の女の子の親になりました。

今回の『パパ・ママ大作戦』ツアー募集は、本年4～8月の予定です。ツアーに参加
しなくても、支援だけでも大歓迎です。詳しくは、NPO法人「Globe Jungle」のホームページ（<https://glojun.com/>）
をご覧ください。

最後に、本年の国際ロータリー第2800地区のRYLA（6月3～4日）のプログラムの1つに、私の「バース
カフェ」を採用していただきました。次代を担う山形の若者と、生まれ出る命の尊さ・素晴らしさを実感し合え
るように頑張ります。どうぞ、多くの参加者をお願いいたします。

鈴木多鶴子（ガバナー令夫人）



クラブ奉仕コーナー



クラブ奉仕委員会
委員長

高橋 敏行（南陽RC）

頑張ろう、小クラブ！ 矜持を持って

2800地区には、会員数の少ない「小クラブ」があり
ます。例えば、会員数20名以下のクラブは池田年度で
は14クラブでしたが、現在は16クラブです。

小クラブでは、例えば奉仕プロジェクトを企画する
場合、20名のクラブは40名のクラブに比較して半分
の金額でしか予算を組めず、半分の人員しかプロジェ
クトに参加できません。しかし、大切なことはプロジェ
クトの予算の多寡や規模の大小ではありません。地
域から「やってもらって良かった」と言われ、自分達も
「やって良かった」と思えるような価値ある奉仕であ
るかかどうかです。

価値ある奉仕で忘れてならないことは、“ロータリー
の友愛の心”です。世の中には、弱い人や困っている人、
支援が必要な人もいます。そういう人達に、結果として
お金や物品を届けるにしても、これまで学び培ったロー
タリーの友愛の心を、汗を流しながら届けることが大切
なのです。それによって、クラブの大小とは関係なく、感
謝と希望、喜びが生まれるのです。

もう一つ、小クラブならではの大きなメリットがあり
ます。それは、クラブ内の役職が早く回ってくることで
す。責任もあれば、その度に勉強や協力も必要です。

クラブの外に、セミナーなどで出ていく機会も増えるで
しょう。それだけに、ロータリーの真髄を早く修得でき
るはず。そういう意味では、小クラブは否応なく効
率的な人材育成と友情の深化が機能するのです。ロー
タリー歴の短い人こそ、小クラブに入会してラッキー
だったとポジティブに考えていただければと思います。

鈴木一作ガバナーは小クラブについて、「住民人口
の少ない地域なら、クラブ会員が少ないのは当然で
す。人口比で自分のクラブ会員数を考えれば良いので
す。山形県は、人口比に対する会員数なら日本一です
よ」と述べています。もちろん立場上、会員増強も口
にはされませんが、鈴木ガバナーの本意は「真のロータ
リアンになれる人に、入会してもらうこと」（月信7月
号）なのです。

しかし、鈴木ガバナーはこうも言っています。「今か
ら10年後、あなたのクラブはどうなっていますか？
10年後のクラブの姿を想像してみてください。クラブ
の活力を保つためには、その10年間に、どの世代に何
人の新会員が入会していればよいでしょう？」（月信7
月号）一。すなわち、クラブの新陳代謝は必要だとい
うことです。

クラブの高齢化は、クラブの弱体化をもたらします。
もちろん、小クラブでも良いのです。大切なことは、
ロータリアンの矜持をしっかりと持つことだと思います。
友情を深め、価値ある奉仕と人材育成に努めながら、
真のロータリアンになれる若い世代を発掘していきま
しょう。私も鈴木ガバナーも、熱い想いは同じです。頑
張ろう、小クラブ！

第5ブロックIM報告



5ブロックガバナー補佐
須藤 吉実
(山形イブニング RC)

2月17日(土)、鈴木一作ガバナー出席のもと、上山RCをホストクラブとして、第5ブロックのインターシティ・ミーティング (IM) が岡岡ホテルで行われました。テーマは「美しい心inかみのやま ~偉い人より、立派な人に~」で、ブロック内からはロータリアン180名を超える参加をいただきました。

上山市内には、福祉施設や特別支援学校、県立こども医療療育センター等の施設が20数箇所あり、「中川福祉村」を中心とした福祉の街です。そうした中で上山RCは、社会奉仕プロジェクトの一環として「地域福祉まちづくり」に15年前から取り組んできたのです。

基調講演として、かみのやま病院院長の江口拓也氏より「かみのやまの福祉のまちづくりの取組」をテーマに、中川福祉村からの事例をもとに福祉のありかたについて話をいただきました。

その後、パネルディスカッションとして、「福祉のまちづくりの取組」をテーマに話し合いがもたれました。コーディネーターに鈴木一作ガバナー、コメンテーターにかみのやま病院院長の江口拓也氏、パネリストに上山市内の福祉施設や支援学校など3施設の代表の方々、そしてアドバイザーに上山市社会福祉協議会担当者、以上6名により行われました。パネリスト3名からは各施設の紹介・取組について話をいただきましたが、コーディネーターの鈴木ガバナーが各々の話をまとめ、そこで見えてきた問題点を次のパネラーに投げかけながらの進行で、参加者も理解と興味を持ちつつ聴いていたと思います。

会場からの質問や意見のあと、コメンテーター江口氏の「障害者には、「やさしさ」で接してください」という結びの言葉が、誰の心にも印象深く響いたパネルディスカッションとなったことを嬉しく思います。

引き続いての懇親会は大盛況。鈴木ガバナーは、IM準備も含めて今年度3回目の来訪で、少数精鋭、和気藹々、価値ある奉仕、そして深い友情に結ばれた素晴らしいクラブですと、美酒に酔いしれておりました。

最後に、ホストクラブの上山RCは少人数の会員の中、企画・運営など大変ご苦労様でした。ガバナーの想いに応えた、実に価値あるIMだったと思います。

心に残った言葉:「福祉とは、何人も等しく得られる幸福である」



米山奨学生の歓送会報告



米山奨学・学友委員会 委員
依田 聡 (米沢上杉RC)

♪蛍の光 窓の雪 書讀む月日 重ねつつ♪

母国を離れ、日本で、この山形で、一生懸命学び活動してきた国際ロータリー第2800地区の2017学年度米山奨学生の歓送会が、2月17日にホテルキャッスルで開催されました。

修了証と感謝状の贈呈、そして奨学生の皆さんからのお礼のスピーチ。それぞれが自分の言葉で、ロータリークラブに対する「感謝」と「恩返し」を語ってくれました。初めて歓送会に委員として参加させていただいた私も、うるっときてしまいました。カウンセラーの皆さん、大学の指導教授の皆さん、お疲れ様でした。

鈴木一作ガバナーの含蓄に満ちた熱い言葉をはじめ、米山奨学会常務理事/米山奨学委員会カウンセラーの武田和夫PG、米山奨学会評議員の新関彌一郎PG、上林直樹GE、米山奨学・学友委員会委員長の久保章宏GNの皆さんからも、それぞれ卒業奨学生に愛情あふれるお言葉がありました。

長谷川憲治直前ガバナーからの“学友となられる皆さんに”のメッセージは、「米山奨学制度のメリットは、返済不要な奨学金を頂けることではありません。奨学生を修了してからも、世界に9ヶ国、日本で33地区にある米山学友会のメンバーとして世界中に広がる人脈・ネットワークを持って、共通のイデオロムで話ができる仲間を持てることも大きなメリットです。それらを活かし、素晴らしいご活躍を期待します」という内容でした。

最後に、山形米山学友会の高吉嬉会長の「卒業する奨学生の皆さん、これからもつながりを大事にし、また会いましょう」という言葉で、閉会となりました。

この日、修了証をいただいた米山奨学生を紹介します。

- アナルガリト (モンゴル:山形大学)
: 山形北RCカウンセラー 小野和行さん
- 李在勇 (韓国:山形大学): 大江RCカウンセラー 海野健治さん
- 宋侶洋 (中国:山形大学): 米沢RCカウンセラー 田中隆一さん
- 李聡 (中国:山形大学) : 米沢中央RCカウンセラー 齋藤栄助さん
- 王文文 (中国:東北公益文科大学)
: 鶴岡南RCカウンセラー 佐藤聡さん

なお、大学の試験でやむなく出席できなかった李聡さんの動画スピーチは、「つながりがあれば、また会える! お別れでなく、旅立ちです!」一、素敵な言葉でした。

ロータリアン、卒業奨学生、カウンセラー、担当教授など、皆の心が一つになった歓送会でした。



審議会

ロータリーの組織運営にクラブや地区の声を反映させる機会として、2つの審議会があります。3年に1度開催される「規定審議会」と、毎年オンラインで開催される「決議審議会」です。

規定審議会

規定審議会は、ロータリーの組織規定文書（R I 定款、R I 細則、標準ロータリークラブ定款）に変更を加える「制定案」とR I 理事会から出される「見解表明案」について、審議と投票が行われます。投票で賛成多数であれば、組織規定文書にそのまま反映されます。次の開催は、2019年4月です（但し、今から提出される「制定案」については、2022年4月に審議と投票が行われます）。

決議審議会

決議審議会は、クラブ、地区、R I 理事会、R I B I の審議会または大会によって提案された「決議案」について投票が行われます。決議案の内容は、組織規定文書に記載されている事柄の範囲外で、地域的または運営的な事柄に関するものより、ロータリー世界に影響を与えるものが望まれます。また、全ての決議案は10月1日からウェブサイトで公開され、10月15日から11月15日までにオンラインで投票され、11月20日に投票結果が公表されます。ロータリアンは誰でも決議案と投票結果を見ることができますが、投票できるのは代表議員のみです。採択された「決議案」は、その後、R I 理事会または管理委員会によって審議されます。審議後の決定内容はウェブサイトで公開されます。

審議会代表議員

地区は、1地区につき1名の審議会代表議員を3年任期で選出します。選ばれた代表議員は、任期中に開催される1回の規定審議会と3回の決議審議会に、地区の代表として出席します。現在、2800地区の代表議員は和田廣P G、補欠議員は新関彌一郎P Gです。

「制定案」と「決議案」の提出方法

規定審議会への「制定案」と決議審議会への「決議案」については、クラブや地区が提出する場合、地区大会、地区立法案検討会、または郵便投票を通じて地区で投票され、承認されたものでなければなりません。（但し、クラブからの提出の場合は、クラブ理事会が会員に提出した上で、クラブで事前に採択されていなければなりません）。そして地区の承認後45日以内に、地区ガバナーによる証明とともに、提案者がオンラインフォームで提出し、R I が受理する必要があります。提出締切は、3年に1度の規定審議会への「制定案」が2020年12月31日、毎年の決議審議会への「決議案」は毎年6月30日です。

「請願書」の提出方法

投票後にR I 理事会で検討されるのは、決議審議会で採択された「決議案」だけです。そこで、クラブは「決議案」ではなく、特定の事柄についてR I 理事会の審議決定を求める「請願書」を提出することもできます。R I 理事会はすべての会合で「請願書」を検討するため、「決議案」を提出するよりも速やかで確実な対応を求めることになります。

「請願書」は、クラブから直接提出できますが、その趣旨を明確に説明した上で、クラブ会長または地区ガバナーの署名が必要です。宛名は、R I 会長、R I 理事会またはR I 事務総長とし、決議案と同じ形式あるいは書簡の形式で提出できます。

詳細については、My Rotary（→ ラーニング&参考資料 → 規定審議会・決議審議会）を参照してください。また、「制定案」、「決議案」、「請願書」を提出したいクラブは、ガバナーまでご一報ください。特に「決議案」については、今年度の提出締切が迫っていますので、ご注意ください。

第3回諮問委員会報告



2017-18年度 地区幹事
奥山 吉一 (寒河江RC)

2月18日（日）、ホテルリッチ&ガーデン酒田において今年度第3回の諮問委員会が開催されました。上林直樹ガバナーエレクトより1月渡米の国際協議会の報告があり、その後、以下の内容についてご協議いただきました。

1. 12月 第2回諮問委員会の議事録確認の件 <了解>
2. 2017-2018年度 地区資金中間報告・地区大会中間決算報告の件 <了解>
3. 2018-2019年度 地区方針、決議事項・申し合わせ事項、地区資金予算（案）、地区大会予算（案）、地区組織図（案）の件 <了解>
4. 2018-2019年度 ガバナーエレクト地区資金予算（案）の件 <了解>
5. 11月ロータリー研究会収支決算中間報告の件 <了解>
6. End Polio Now、ロータリー平和センター、ロータリー平和センター基金へ、各1万ドルのDDF寄贈の件 <了解>
7. その他
 - ・豊田義一パストガバナーの山形西RC退会と名誉会員就任の件 <報告のみ>
 - ・大久保年度の日本青少年交換研究会日程の件 <報告のみ>

会長エレクト研修セミナー報告



次年度地区幹事
池田 健一 (酒田中央RC)

春の到来を思わせる穏やかな天候の3月3～4日、ホテルリッチ&ガーデン酒田を会場に会長エレクト研修セミナー（PETS）を開催いたしました。各クラブの会長エレクト・次期幹事の皆様をはじめ、パストガバナー、次年度のガバナー補佐・委



員長など、161名のご出席を得て、上林直樹ガバナーエレクトの開会点鐘により2日間にわたるPETSが始まりました。

鈴木一作ガバナーからは「PETSの目的について」のお話があり、参加された方々は大変重要なセミナーとの認識と緊張感を強く持って、セミナーのスタートとなりました。

次に、上林直樹ガバナーエレクトより国際協議会の報告として、2018-19年度RIテーマ「インスピレーションになろう “BE THE INSPIRATION”」、RI会長賞、ロータリー賞などの説明がありました。その後、第2800地区の次年度の基本理念、方針、地区資金予算（案）、地区大会予算（案）、学友地区資金予算（案）、申し合わせ事項（案）、決議事項（案）の発表がありました。それらを各クラブの予算にも反映していただきたいこと、そして1か月後の地区研修・協議会にて採択が行われることを話されました。その後、各委員長より次年度の事業計画の発表、それに対する質疑応答と続きましたが、貴重な意見・質問が相次ぎ、有意義な研修セミナーでした。

セミナーの疲れを癒し、会員相互の交流を図る懇親会では、143名の方が出席されました。名刺交換も活発に行われる中、サプライズで青少年交換留学生のニャラデ・ナターリアさん（部活動で剣道初段に合格）が、酒田剣道連盟会長の荒木照夫錬士六段（酒田中央RC会員）と共にその腕前を披露してくださいました。楽しく和やかな時間を過ごして閉会となり、翌日はロータリー財団補助金管理セミナー、そして昼前に全日程を終えました。



「クラブ奉仕・ロータリー情報・職業奉仕」合同セミナー報告

3月17日（土）、寒河江市ハートフルセンターにおいて、石黒慶一R I 理事、三木明R I 理事エレクトを特別講師にお迎えして標記セミナーが開催されました。地区内から210名余りのロータリアンにご参加いただき、心から感謝申し上げます。

<基調講演>

最初に、小生が「ロータリーの目的と職業奉仕」について話しました。以下に、その要旨を記します。

ロータリーとは？



①ロータリーの根本は、利己と利他の心を上手く調和させる「超我の奉仕」という名の人生哲学である。それは、実生活上、実に道理にかなった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を原理・原則とした人生哲学である。
(1923年：決議23-34の1) <一部改編/要約>

②ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることがを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを旨とした、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。 (1976年：R I 理事会決定)

③ロータリーは、事業、専門職務、地域社会のリーダーらによって構成され、親睦と寛容、個人の資質向上、事業の維持・発展に努めるとともに、家庭や仲間、職場、地域、国際社会における幸福の達成に寄与する「奉仕の心と実践」に満ちた立派なロータリアンを育てる世界的な団体である。
(Guy Gundaker の「ロータリークラブの定義」を参考に、最近のR I の方針を加味して作成した文書)

ロータリーの奉仕哲学（奉仕理念、奉仕の理想、奉仕の理論）

少なくとも2010年6月のR I 理事会決定以降は、「ロータリーの奉仕哲学」＝「超我の奉仕という人生哲学」です。これは、上記①の「決議23-34の1）」の内容を示すものです。

Guy Gundaker から考えるロータリー

上記の①②はもちろん尊重されるべき内容ですが、私は③こそ、ロータリーの根本を上手く表現した内容だと思っています。③の原型としたGuy Gundakerの『A Talking Knowledge of Rotary』（1916年）は、2800地区のHP「ロータリーを学ぶ」にも解説がありますので、ご参照ください。



Guy Gundakerのロータリー観

- ①ロータリアンの「人間性の向上」と「事業の発展向上」。
- ②ロータリアンの職種・業界全体の向上。
- ③ロータリアンの家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上。
- ④ロータリークラブは、上記①～③のための「訓練、学びの場」である。
- ⑤ロータリーという苗木が成長するためには、「親睦」という良い土壌が必要である。
- ⑥ロータリーの究極の目的は、「素晴らしい真のロータリアン」になることである。

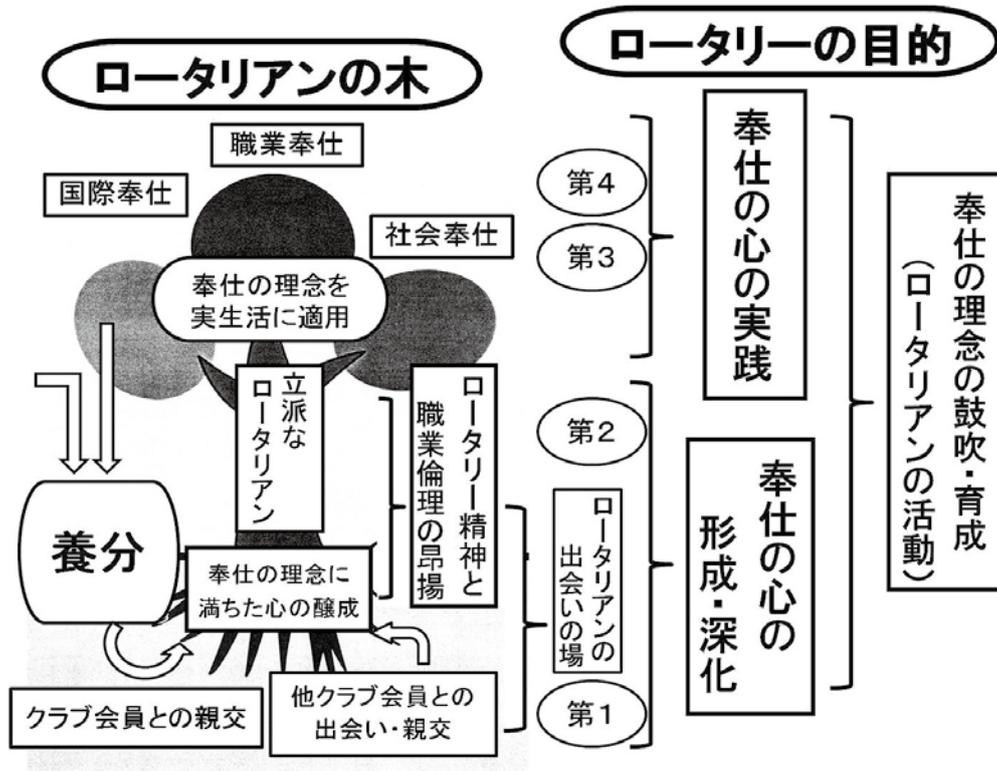
ロータリーの最も簡潔な表現

ロータリーは、「①ロータリアン同士の友情を基盤に、②価値ある奉仕をしている、③立派なロータリアンを育てている」世界的な団体です。

これは、次の「ロータリアンの木」の内容そのものです。また、「②価値ある奉仕」の根幹は、言うまでもなく「職業奉仕」です。

ロータリーの目的

ロータリアン、ロータリークラブ、地区やR Iの目的、そしてガバナーの目標は、すべて「ロータリーの目的」を推進することです。「ロータリーの目的」を理解するには、下記の「ロータリアンの木」で考えるとよいでしょう。



職業奉仕

ロータリーにとって、**職業奉仕が大切な理由**

1991-92年R I 会長 ラジェンドラ.K.サブーの言葉“高い倫理基準を保持している職業奉仕を失うならば、ロータリーは地域の単なる奉仕団体になり下がる”

職業奉仕の森

職業奉仕は、歴史的に幾つかの流れがあり、それらが混在し合いながら、今に至っています。

詳しい説明は、2800地区のHP「ロータリーを学ぶ」を、ご参照ください。

職業奉仕の森



<特別講演 (1)>

引き続き、三木明R I 理事エレクトから、「これからのロータリー」についてお話しをいただきました。まず、「ロータリーの使命」は「職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて人々に奉仕し、高潔さを奨励

し、世界理解、親善、平和を推進することである。」と述べられました。そして、「奉仕の原点」とは、「皆さんの心の奥にある“誰れかにいいことをしてあげたい”、“誰かに喜んでもらえるなら、何か私にできるお手伝いをしたい”という心です。すなわち、他者から命じられて行うのではなく、強制でもなく、自由意志で、自発的な思いから発するもので、自らが抑えきれない思いから発生する行動です。」と述べられました。その上で、「ロータリアンの義務」は「規則的に会合に出席すること。速やかに会費を払うこと。求められた時には与えられた役割を果たすこと。寛大で、偏見がなく、精力的で活動的な、真のロータリアンになること」を強調されました。さらに、「ロータリーの親睦」は「感性的な親睦だけではなく、心の友を得ることによって、奉仕の心がおのずから生まれてくるものでなければなりません。」と話されました。第2680地区（兵庫）のバスターガバナー深川純一氏の一番弟子を自負する三木明R I理事だけに、Guy Gundakerのロータリー観が色濃く出ていた内容でした。

引き続き、ロータリーの誕生から発展に至る歴史について解説されましたが、そこでもGuy Gundakerの考え方、すなわち「お互いに自分を磨き合うという教育的機能がロータリー運動の本体である。すなわち、自己研鑽、切磋琢磨によって人格を磨き、自分を高め、奉仕の心を作ること。そして例会を出たら、ロータリアン以外の人々に、この人格の功德を施し、その人達の人格を高める。これがロータリーの奉仕の本体である。」と強調されました。その上で、「ロータリークラブは、寄付団体でもなければ、福祉目的の慈善団体でもボランティア団体でもありません。ロータリーは倫理運動であって、素晴らしいロータリアンとの出会いや交流を通じて人を育てること、道徳を守る人を作ること。それによって世のため人のために尽くしたいという“愛の心”が、ロータリーの根本です。ロータリーという素晴らしい世界に生きることができるのは、大変幸せなことです。その恩返しを、社会や次の世代にしなければならぬと思っています。」と述べられました。

最後に、「クラブ運営の柔軟性と多様性」というテーマで、例会の頻度・場所・方法、そして会員種類の変更についてお話しをされました。すなわち、「自分のクラブの将来を考えながら、場合によってはクラブ細則を柔軟に変更しましょう。もちろん、多様性という言葉が示す通り、これまでと同様なクラブ細則でもよいのです。要は、革新的で魅力的なクラブ運営にチャレンジするにしても、また伝統的なクラブ運営を大切にすることも、自分のクラブの将来を見据えて責任ある判断をして欲しいというのが、2016年の規定審議会の決定です。クラブの運営は規定審議会の決定に左右されるだけに、審議会にも関心を持ち、必要なら制定案や決議案の提出を検討しましょう。」という内容でした。

実は、講演の中で「心の田畑」、「湯船の論し」、「ザルの水」、「四つのテスト」など、有名なロータリー・エピソードについてもお話ししてくださいました。どれも大好きなエピソードなのですが、ここでは、私の最も大好きな「ザルの水」の話を紹介いたします。元々は、1967年に第368地区の齋木亀治郎バスターガバナーがお話しされた内容です。

「スイスのある片田舎でのお話です。おばあさんがザルの中に羊の毛を入れて、きれいな谷の水に打たせていました。そこへ牧師さんが通りかかり、『おばあさん、あなたは日曜毎に教会へ来て、私の説教を聞いてくれているね。さぞかし、いい話をたくさん覚えてくれているだろうね』と言いました。おばあさんは、『ところが牧師さん、私は聴くそばから、どんどん忘れてしまうのですよ』と答えたのです。牧師さんが『せっかくのいいお話を忘れてしまうのかい。困ったものだね』と言いますと、おばあさんは次のように言いました。『牧師さん、この羊の毛を見てください。ザルの目からどんどん水は流れていってしましますが、羊の毛は、こんなにきれいになっていますよ』と――。ロータリーの理想は高く、理念は崇高なものです。私たちはいつも多くのことを聴き、教えられます。しかし、聴くそばから全て忘れてしまいます。しかし、それで良いのです。清らかな水が流れ去ってしまっても、大切なことは、このロータリーという清らかな水の中に身体をはべらせ、どっぷりつかっていれば、やがて身も心も清らかになるのです。それによって、世の中を明るくし、ひいては世界の平和に通ずる道（心）に繋がっていくのではないかと思います。』（一部改編）

この話しを久し振りに聞いて思い出したのは、地区運営方針でも触れた会長スピーチのことです。毎回、会員の心が洗われるような会長スピーチで例会が開かれていけば、そのクラブは幸せです。会員の誰もが楽しみにす

るような会長スピーチは、最高の会員退会防止だと思います。ぜひ内容を十分吟味し、時間配分や話し方（スピードや間、抑揚など）にも気をつけながら、残る会長任期を素晴らしい会長スピーチで通し、クラブ会員に感動を与えていただければと思います。三木明 R I 理事エレクトのお話しは、私にとって、まさに清らかな「ザルの水」でした。

<特別講演（2）>

引き続き、石黒慶一 R I 理事から、「クラブ運営」についてお話しをいただきました。まず、今年度の R I テーマ「ROTARY MAKING A DIFFERENCE（ロータリー 変化をもたらす）」と次年度のテーマ「BE THE INSPIRATION（インスピレーションになろう）」は共通したものであり、繋がっていることを強調されました。その上で、アトランタ国際大会の基調は「絆、ポリオ撲滅、変革、鼓舞」であり、その鼓舞（Inspire）が次年度の R I テーマに結びついたように思われ、それは「変化という発展をもたらすために、皆の意欲を喚起し、共感や感動、感化を与えて鼓舞するようなロータリアン・リーダー（インスピレーション）を必要としている」ということであり、勝海舟の言葉「時勢は人をつくる」に近い内容ではないかと述べられました。

（注：私自身、勝海舟の言葉を記した「氷川清話」の大ファンです。「時勢は人をつくる」とは、「時代が人を育み、人と人との出会いが時代を動かす。時が人を得て、人が時に乗じて歴史の歯車を回す」という意味であり、裏読みすれば「ロータリーの舵取り転換期という難局が、インスピレーション・リーダーを作ろうとしている」ようにも思えます。そういう意味では、ジョン・ヒューコ R I 事務総長もその一人かも知れません。）

さらに、ポーリハリスの「ロータリーは社会の変化に対応しなくてはならない」、ダーウィンの「環境に適応するものだけが生き延びる」、ニーチェの「脱皮できない蛇は滅びる」などの言葉を紹介するなど、**変化の必要性**について説明されてから、**鼓舞（Inspire）**のためには「I: Intelligence（理解）、Integrity（誠実、高潔）」、「N: Knowledge（知識、知見）」、「S: Social Awareness（社会意識）」、「P: Proactivity（率先性、積極性、先見性）」、「I: Independence, Imagination（自立）」、「R: Respect（他者への尊重）」、「E: Empathy（共感力）」が必要であり、それらを兼ね備えたリーダーを期待したいと述べられました。

実際、クラブ運営、特にクラブの強化のためにも優れたリーダー（Leader）の存在が重要であり、標準クラブ定款第3条「クラブの目的」に記された「ロータリーの目的の達成を目指し、五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施し、会員増強を通じてロータリーの発展に寄与し、ロータリー財団を支援し、クラブレベルを超えたリーダーを育成すること」を引用された上で、5つの価値観「奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ」に触れながら、リーダー（Leader）には「L: Listen（人の話がよく聴ける）」、「E: Explain（人に分かり易く説明できる）」、「A: Assist（人に手を差し伸べられる）」、「D: Discuss（人と十分意見交換ができる）」、「E: Evaluate（人を評価してやれる）」、「R: Respond（人の提言を尊重し対応できる）」が必要であると強調されました。最後に、リーダーは「頑張る」のではなく、「精進する」という気持ちで期待に応え、役割を果たして欲しい旨を話され、講演が終わりました。

その後の質疑応答では規定審議会について幾つか質問がありましたが、本号6ページに解説を掲載しましたので、ここでは割愛いたします。いずれにしても、次年度、世界で17人しかいない R I 理事のうちのお二人から2800地区で講演していただけたのは、とても光栄なことであり、しかも有意義な講演内容だったと思います。なにより、今回の機会を最も楽しみにしていて、かつ最も役に立ったのは、上林直樹ガバナーエレクトと大久保章宏ガバナーノミニだったかも知れません。

ガバナー 鈴木一作

米山記念奨学会 財団設立50周年記念式典の報告



米山奨学・学友委員会
委員長

大久保 章宏 (山形南RC)

米山梅吉翁の生誕150年の本年2月4日、米山記念奨学会の財団設立50周年式典が、東京で盛大に開催されました。ミャンマー連邦共和国特命全権大使、台北駐日経済文化代表処、モンゴル経済担当二等書記官、マレーシア次席大使、ベトナム社会主義共和国公使、文部科学省、外務省などのご来賓、そして元RI会長、RI理事、元RI理事、鈴木一作ガバナーをはじめ全国のガバナーやパストガバナー、ロータリアン、米山学友の皆様など、なんと総勢800名の出席でした。

式典では、米山学友5名によるディスカッションが行われましたが、キーワードは「感謝」と「恩返し」だったと思います。彼らは異口同音に、留学生として来日し、米山奨学生としてロータリー、世話クラブ、カウンセラーとの出会いから多くのことを学び、助けてもらって感謝していること。その恩返しの気持ちから、日本や母国で活躍している米山学友らによって、今や日本人留学生への支援、特に台湾や韓国では日本からの留学生に奨学金を支給する活動が広まっていることなどが報告されました。まさに米山記念奨学制度の逆バージョンが、世界各国で行われているのです。

今回の式典では、生前の米山梅吉翁と親交のあった阿部志郎先生(神奈川県立保健福祉大学名誉学長)による感動

的な講演もありました。阿部先生は92歳の高齢ですが、しっかりと口調で、米山梅吉翁の生き方「愛されて生き、生きて愛する」についてお話しされました。米山梅吉翁の人を育て、平和を祈る気持ちは米国留学時に学んだことで、帰国後、それを自ら実践されていたこと。奥様と二人で財産を全て投げ、人材育成のために緑ヶ岡小学校を設立したこと。その小学校では、「言葉、態度、服装、礼儀は正しくありなさい。人に迷惑をかけてはいけません。嘘をついてはいけません。人から嬉しいと思うことをされたら、人に嬉しいと思うことをしなさい」という4つの教えを大切にしていたこと。まさに、その立派な言葉や立ち居振る舞いに、自分もこういう人になりたいと強く思ったことなどを語っていただきました。

式典に参加して、私自身、米山記念奨学制度はロータリーの奉仕活動そのものであり、人材育成、国際平和に大きく貢献してきたこと、そして自信と誇りを持って継続発展させていくべきことを強く認識した次第です。皆様のご理解とご協力のもと、これからも頑張ります。

追記:東京在住の山形学友会の皆様の呼びかけで、式典前日、東京で学友会の会合と懇親の集いを開催することができました。有意義な情報交換とともに、「米山の輪」が益々広がり、深まったことに感謝申し上げます。



「国際ロータリー第5420地区(米国ユタ州)ロータリーの旅」ご案内



今年度の地区大会RI会長代理Dean L Jackson氏(ユタ州プロボRC)と次年度の第5420地区ガバナーScott A Leckman氏(ユタ州ソルトレイクシティーRC)から、「米国ユタ州ロータリーの旅」のご案内が来ています。

当地区からは鈴木一作ガバナー夫妻が参加します。参加ご希望の方は詳細な資料をお送りしますので、ガバナー事務所にご連絡ください(締切:5月10日)。全日程に日本人添乗員が同行し、米国ではDean L Jackson氏も同行・案内をさせていただきます。

日程 2018年9月9日(日) 10:40 成田空港発

- ・ダラス、ローガン(1泊)、ソルトレイクシティー(2泊)、セントジョージ(1泊)の観光
- ・プライスカニオン国立公園(1泊2日)の観光
- ・3つのロータリークラブと交流会(ローガン、ソルトレイクシティー、セントジョージ)

帰国(以下の2つから選択)

- ① 9月15日(土) 15:25 成田空港着
- ② オプション:ラスベガス観光(2泊)後、9月17日(月) 15:25 成田空港着

費用 ① 7日間 398,000円(予定) ② 9日間 438,000円(予定)

Dean L Jackson 氏のコメント

「2800地区の皆様、地区大会では大変お世話になりました。米国に来て、観光も兼ねながら、5420地区のロータリークラブと交流しましょう。私のご案内します。Scottさんも日本が大好き。来年は、我々が京都、東京、山形に行きたいです。」

ガバナーの想い

去る3月18日(日)、米沢市の九里学園高等学校体育館で行われた「九里茂三先生(パストガバナー)お別れの会」に、国際ロータリー第2800地区の代表として参加してまいりました。ご遺族のご承諾をいただきましたので、以下に、小生の弔辞を掲載いたします。

九里茂三先生の御霊前に、国際ロータリー第2800地区の全ロータリアンを代表し、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

九里茂三先生は、九里学園校長として忙しく活躍されていた中、1965年に45歳で米沢ロータリークラブに入会、その三年後には同クラブ会長をされました。さらに1986年には、当時、福島・山形の両県80クラブから成る国際ロータリー第253地区の指導者であるガバナーに就任されています。

ガバナー時代、先生は九里学園の校是「礼」と「譲」、すなわち「礼一人間の尊厳を信じ、その高貴さにふさわしく行為しよう」、「譲一自らの持てる力を発揮して愛する世の人々に捧げよう」は、ロータリーの真髄と見事に一致すると喝破され、私学教育にかける情熱をロータリーへの熱い想いに託しながら、地区内外で熱心にお話しをされていたと聞いています。

私と九里先生との出会いは、それから約十年後、私がまだロータリーに入会して間もない頃、この九里学園で青少年育成のためのセミナーがあった時のことです。九里先生は、「ロータリーは友愛と奉仕、そして立派な人を育てる所」という講話をされ、「礼」と「譲」についても教えてくださいました。そのお話しにとっても感動した私は、以来、ロータリーを本気で勉強するようになったのです。

ガバナーとなった今、私は地区内外で「美しい心、ロータリアンの矜持」と題し、「ロータリーは、ロータリアン同士の友情を基盤に、価値ある奉仕をしている、そして立派なロータリアンを育てている所」と語り伝えているところです。それはまさに、九里先生の講話の内容そのものです。

九里茂三先生一、先生は私のような未熟なロータリアンに一筋の光明を与え、道標と成長の手立てを示してくださいました。その私が今、まさにここ九里学園で、ガバナーとして弔辞を読ませていただいていることは、先生のお導き、運命的な繋がりと感じないではいられません。九里先生に恥じない、九里先生のロータリーに対する真摯な想いを引き継ぎながら、2800地区のガバナーを全うすることをお誓いし、お別れの言葉といたします。

長い間、国際ロータリー第253地区から第2800地区における発展、そして私学教育の発展に尽くしていただき、本当にありがとうございました。安らかにお休みください。心から、ご冥福をお祈りいたします。

平成30年3月18日

国際ロータリー第2800地区ガバナー
鈴木 一作

ガバナーの想い

～RYLA～

ライラ(RYLA)とは、Rotary Youth Leadership Awards(ロータリー青少年指導者育成プログラム)の頭文字です。このプログラムの目的や内容は、月信3月号で前田昌信RYLA小委員長が述べた通りです。

皆様は、仲の良い夫婦、友愛の情、事業の達成感、健康や長寿、そして日々折々の生活に感謝や喜びを感じてきたことでしょうか。自分の土地や財産を殖やし、会社を拡大発展させた人も多いでしょう。もちろん、苦労や失敗もあったでしょうが、我々はロータリアンです。ロータリアンとしての喜び、ロータリアンでいられる幸せも実感されているはず。だとしたら、功成り名を遂げてきた人生の後半または終盤を迎えつつある今こそ、山形県の若者のために、時間と汗と多少のお金を使って欲しいのです。

米沢市の九里学園の校是は、「礼一人間の尊厳を信じ、その高貴さにふさわしく行為しよう」、「譲一自らの持てる力を発揮して愛する世の人々に捧げよう」です。人として、なんと素晴らしい生き方ではありませんか。今の社会に大きな責任を負っている我々ロータリアンこそ、そういう生き方の手本を若者らに示し、彼らに力を与えなければなりません。2800地区は、そういうRYLAを目指しています。

本年6月のRYLAには、各クラブより最低1名、できれば2名以上の若者を参加させてください。登録費も例年より格安です。講師には、日本の道德教育を良くしようと大活躍されている中学教師、服部剛先生をお招きします。妻の多鶴子も、女性ならではの「パースカフェ」(本号3ページ参照)を担当してくれることになりました。私も含めて、RYLA担当者全員が一丸となってプログラム成功に向けて頑張ります。できれば、ロータリアンの皆様も同行・見学(無料ですが、宿泊を伴う場合は実費負担)を通して、次代を担う若者に応援と期待、勇気を与えて欲しいのです。なぜなら、若者は我々の宝であり、希望であり、未来だからです。何卒、ご高配ご協力のほどお願い申し上げます。



2017-2018 クラブ会員数/出席率

ブロック	クラブ名	2017.7.1		2018.2.28			年初からの増減数				累計出席率
		会員数 (女性会員数)		会員数 (女性会員数)	出席率	増 (女性会員数)	減 (女性会員数)				
第1ブロック	酒田	27 (3)		27 (3)	74.07	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	72.47	
	酒田東	35 (5)		36 (5)	72.20	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	82.74	
	酒田中央	37 (0)		41 (0)	84.57	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	82.84	
	酒田スワン	15 (6)		15 (6)	92.86	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	85.04	
	酒田湊	15 (3)		15 (3)	97.78	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	84.89	
第2ブロック	鶴岡	28 (5)		31 (5)	79.31	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	84.43	
	鶴岡西	33 (4)		30 (4)	75.53	1 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	79.02	
	余目	29 (1)		31 (1)	64.17	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	75.68	
	立川	14 (0)		12 (0)	72.50	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	85.46	
	鶴岡東	28 (1)		27 (1)	75.76	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	83.99	
第3ブロック	鶴岡南	20 (3)		20 (3)	73.33	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	78.82	
	天童	45 (3)		46 (3)	94.33	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	95.22	
	東根	34 (1)		33 (1)	74.24	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	80.90	
	天童東	47 (0)		53 (0)	90.96	6 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.22	
	天童西	18 (2)		19 (2)	82.46	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	85.76	
	東根中央	45 (3)		45 (3)	77.00	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	80.87	
	村山	10 (0)		10 (0)	100.00	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	99.13	
	新庄	14 (2)		15 (2)	83.33	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	86.53	
	尾花沢	19 (0)		17 (0)	84.31	1 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	87.04	
	最上	22 (1)		24 (2)	52.09	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	52.65	
	尾花沢中央	16 (1)		17 (1)	85.29	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.85	
	第4ブロック	村山ローズ	18 (5)		20 (5)	83.00	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	80.75
新庄あじさい		15 (0)		16 (0)	90.63	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	88.59	
寒河江		52 (2)		51 (2)	83.06	2 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	90.65	
大江		16 (1)		17 (1)	97.06	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	97.08	
河北		29 (0)		29 (0)	86.42	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	84.49	
第5ブロック	寒河江さくらんぼ	40 (3)		40 (3)	74.10	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	84.42	
	西川月山	13 (0)		13 (0)	69.44	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	77.23	
	山形	90 (2)		92 (2)	100.00	5 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	100.00	
	山形北	58 (0)		65 (2)	90.73	10 (2)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	93.90	
	山辺	24 (0)		27 (0)	97.12	4 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	97.33	
	山形南	53 (2)		54 (2)	95.71	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	95.91	
	中山	12 (0)		13 (0)	71.79	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	76.64	
	山形西	101 (0)		100 (0)	94.21	3 (0)	4 (0)	4 (0)	0 (0)	95.80	
	上山	15 (3)		17 (3)	64.06	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	69.60	
第6ブロック	山形東	32 (1)		29 (1)	88.21	1 (0)	4 (0)	4 (0)	0 (0)	90.51	
	山形中央	40 (3)		41 (3)	91.58	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	94.63	
	山形イブニング	30 (1)		30 (1)	59.26	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	65.74	
	米沢	59 (8)		62 (9)	86.69	5 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	88.50	
	米沢上杉	66 (3)		71 (4)	99.65	7 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	99.14	
	高畠	49 (3)		48 (3)	75.90	2 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	73.38	
	米沢中央	38 (4)		39 (6)	98.72	2 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	98.47	
	米沢おしょうしな	28 (3)		29 (3)	78.74	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	76.59	
	長井	29 (1)		29 (1)	81.59	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	76.90	
	南陽	12 (1)		14 (1)	94.86	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	86.11	
	白鷹	20 (0)		19 (0)	75.16	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	82.47	
小国	17 (0)		18 (0)	82.46	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	83.89		
南陽東	33 (2)		35 (2)	64.07	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	70.98		
長井中央	18 (1)		19 (1)	81.50	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	81.43		
南陽臨雲	30 (3)		29 (2)	71.00	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	73.26		
合計	1588 (96)		1630 (102)	82.26	91 (7)	49 (1)	49 (1)	0 (0)	84.46		



ロータリー情報のコーナー 〈 8 〉

ロータリー情報小委員長 野川 勝弘



1920年(大正9年)10月20日、東京ロータリークラブは会員24名でスタート。米山梅吉は初代会長に就任。福島喜三次は幹事だったが、第1回、第2回の例会に出席した後、三井物産大阪支店に転勤となり、退会した。例会は毎月第2水曜日、昼の12時30分から午後2時まで。実は、当時のロータリーは必ずしも週1回の例会ということではなく(1922年6月のロサンゼルス国際大会で毎週1回の例会と決定)、東京クラブでは月1回の例会だった。

会員数は、大正11年には33名となり、翌年半ばには53名となった。しかし、会員の出席率はよくなかった。大正12年4月の例会は出席率55%で、会長、副会長ともに欠席と記されている。創立まもなくということもあり、会員間では定款・細則にも関心が薄かった。しかも、会員は錚々たるメンバーで、例会出席を口うるさく求める米山は煙たがられた。ちなみに、大正10年8月10日の例会で、「相馬半治と増田義一がイニシエイショイ(initiatory)スピーチをした」という記録が残っている。ロータリークラブでは、新入会員は入会後まも

なくイニシエイション・スピーチを行う習わしになっているが、記録の上では日本初のものであろう。

そんな時、会員に意識改革をもたらしたのが1923年(大正9年)9月1日の関東大震災だった。そのニュースが世界を駆け抜けると、世界各地のロータリーから救援の手が續々と寄せられた。これが、世間に広くロータリーを印象づけることになった。東京クラブは、震災後、例会を開く場所がないため休会していたが、10月10日に銀行集会所の食堂で例会を開いた。しかし、出席会員は27人(出席率53%)で、会長と副会長も欠席だった。そこで例会を主宰することになった米山は、出席者に大震災に関する体験を述べさせたという。

その後の10月24日の例会は、創立記念日のお祝いも兼ねたので、出席者も多かった。実は、この時の米山の言動が、その後のロータリークラブの発展を運命づけたのである。

(参照: 米山梅吉記念館資料「米山梅吉 そのロータリーとのかかわり」)

新入会員紹介



北門 一忠

所属クラブ / 上山
職業分類 / 測量業
入会日 / 2018.2.14



笹井 祐之

所属クラブ / 米沢おしょうしな
職業分類 / 内科医
入会日 / 2018.2.26

訃報



櫻井 清

2018年3月7日 ご逝去
享年93歳 (鶴岡西)



相座 弘壽

2018年3月23日 ご逝去
享年82歳 (寒河江)

表彰関係

〈 米山功労クラブ 〉

山形中央 RC 第4回米山功労クラブ
山形南 RC 第18回米山功労クラブ
東根 RC 第4回米山功労クラブ



第23回米山功労者
メジャードナー

鈴木 一作
(寒河江 RC)



第31回米山功労者
メジャードナー

藤川 享胤
(鶴岡 RC)



第1回米山功労者

加藤 一弘
(鶴岡 RC)



PHF+1
本間 厚
(鶴岡 RC)



PHF
菅原 成規
(鶴岡 RC)



PHF
佐藤 詩郎
(鶴岡 RC)



第1回米山功労者
依田 聡
(米沢上杉 RC)



PHF+2
高谷 時子
(村山ローズ RC)



PHF+1
太田 正弘
(鶴岡南 RC)



山形北RC50周年記念公開講演会のお知らせ

以下の通り、平成29年秋に外国人として旭日小綬章に輝いた新モンゴル学園理事長のジャンチブ・ガルバドラッハ氏(モンゴル米山学友:1998-99 山形北RC米山奨学生)による公開講演会が開催されます。入場無料ですが、事前の申し込みが必要です。

開催日: 2018年4月15日(日) 13:30~

13:40~14:00 モンゴル音楽ミニコンサート

14:00~15:00 講演 感謝からの恩返し

~ 新モンゴル学園と山形北ロータリークラブの絆 ~

場所: 山形中央公民館(アズ七日町) 6階大ホール

申し込み: 山形北RC事務局 (☎023-632-7777)

4月の 地区スケジュール

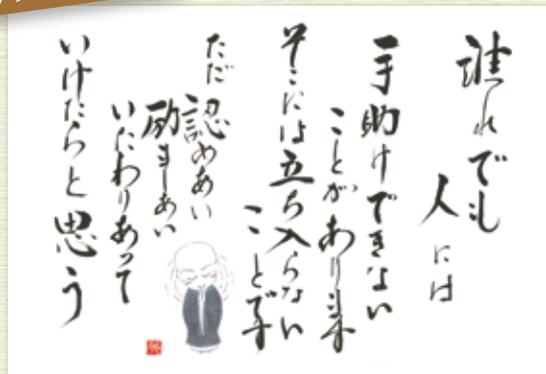
4/1 日	
2 月	
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	米山奨学生オリエンテーション&米山カウンセラー説明会 (山形)
8 日	⑥青少年交換小委員会(寒河江)
9 月	
10 火	
11 水	
12 木	
13 金	
14 土	第4回諮問委員会 寒河江さくらんぼRC30周年記念式典
15 日	山形北RC50周年記念式典
16 月	
17 火	
18 水	
19 木	
20 金	
21 土	
22 日	地区研修・協議会 (酒田市)
23 月	
24 火	
25 水	
26 木	第4回インターアクト連絡協議会 (寒河江市)
27 金	
28 土	ローターアクト年次大会 (鶴岡市)
29 日	昭和の日
30 月	振替休日
5/1 火	
2 水	
3 木	憲法記念日
4 金	みどりの日
5 土	こどもの日
6 日	
7 月	
8 火	
9 水	
10 木	
11 金	
12 土	↑ 青少年交換プログラムセミナー (千葉市) 第23回日本青少年交換研究会 (千葉市)
13 日	↓



寒河江十景 長岡山の桜

2008年、寒河江RCが創立50周年を記念して、寒河江公園に整備した「ロータリーの杜」。市内の中心に位置する長岡山の山頂にあり、展望も素晴らしい市民の憩いの場になっている。特に桜の季節にはぜひ訪れて頂きたいスポットになっている。

今月の言葉



Rotary



◇ガバナー事務所

〒991-0041 寒河江市寒河江鷹ノ巣7番地
TEL: 0237-85-1882 FAX: 0237-85-1883
E-mail: ri2800suzuki@helen.ocn.ne.jp

◇地区事務所

〒994-0034 天童市本町2-1-31 天童セントラルホテル2F
TEL: 023-687-0208 FAX: 023-687-0209
E-mail: ri2800@muse.ocn.ne.jp

◇ホームページ

国際ロータリー山形 検索 
<http://www.rid2800.jp>

